

＜校内サポートルーム（KSR）研究指定校事業＞

- 1 研究主題 「安心して心を落ち着ける居場所(のびのびルーム)の運営」
- 2 目標 家に籠もるのではなく、登校を続けることで、社会的自立につながる場所、それぞれの児童の好きな空間(落ち着ける場所)をめざす

### 3 運営内容と成果

#### (1) 環境づくり

- ア 相談室は、どの時間帯でも入室できるようにし、戸やカーテンを全開にすることで、室内の様子を確認して入室することができ児童が安心して登校することができた。児童があまり通らないところやベランダから入退室できる場所を相談室として設置したため、人目を気にせず入退室することができた。
- イ 相談室内にソファや円卓を置くことで児童間の関係を深めることができた。また、円卓での学習をしていくうちに不便なことが増えたため、児童用机に変更した。児童用机に変更すると教室のような雰囲気になり、学習に取り組む児童が増えた。
- ウ 保護者と離れることが不安な児童は、保護者同伴の通室の支援を行うことで学習や活動に取り組むことができた。また、相談室の雰囲気に慣れてくると、保護者との距離が少しずつとれるようになった。

#### (2) 担当教員の意図的な支援

- ア 毎日5校時に相談室での創作活動を入れることで、5校時まで学校で過ごすことができた。また、相談室での活動により、登校意欲が増し欠席率が減少した。
- イ 学級担任と児童との架け橋になることで、担任との距離を縮めることができた。また、学級担任へ自分の思いを伝えることが難しい児童は、意思表示カードを作成し、毎日担任に提示することで気持ちを伝えることができた。さらに、学級担任との距離を縮めたことで、教室に入れなかった児童が教室内に入り、目を見て話をしたりすることができた。
- ウ 児童の毎日のスケジュールは、児童自身が自己決定し、それを尊重。計画できない時は担当教員が助言し進めた。また、学習する量や時間は計画の最初の段階で決めておくことで児童の集中力にもつながった。

#### (3) 校内サポートルームにおける活動

- ア 作成した作品を壁面掲示〈図1〉
- イ ダンボール工作〈図2〉
- ウ 運動
- エ 給食
- オ 行事等の事前指導
- カ 授業への引率やオンライン授業
- キ 生き物、植物の飼育
- ク 講師による授業



〈図1〉壁面掲示



〈図2〉ダンボール工作

#### (4) スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携

昨年度、SCは年間36回、SSWは年間2回、児童・保護者の相談支援を実施。一人一人がどのような課題を抱え、どう捉えているか、短期的長期的にどのようにしたいと考えているかニーズの把握が定期的な実施できた。また、保護者の心が安定するように支援していただいたり、のびのびルームでの様子を観察していただいたりした。さらに、児童や保護者の願いをもとに、今後の対応について、担当教員や管理職に助言をいただく等、通室児童への支援の参考にすることができた。

関係機関との活動として、「ドッグセラピー」「シャボン玉づくり」、専門家の講話等を実施。子どもたちに学ぶ楽しさ、できる喜びを経験できるチャンスに留まらず、いろいろな方と接するよい機会にもなり、児童の心の成長につながった。